

先週金曜日 (6/30)、防犯訓練 (不審者対応) 訓練をおこないました…



今回の防犯 (不審者) 対応訓練は、これまでと異なり、子どもたちが普通授業を受けている状態で、東門から警備員さんの制止を振り切って『不審者』が校内に侵入したという想定で、子どもたちも巻き込んだ形での訓練をはじめて実施しました。さらに今回は豊中南警察署から 3 名の刑事さんにきていただき、そのうち一人の方が『不審者』に扮して訓練をおこないました。

この『不審者』はマスクに黒いサングラスをかけ、ズボンのポケットにはナイフを忍ばせたいでたちで、東門から侵入しました。これまでの訓練では先生がこの不審者役もやっていた



ましたが、今回は普段面識のない人が不審者となったことで、訓練に参加したすべての先生たちが、まさに実際に『不審者』が校内に侵入したということを実感しました。訓練開始は 2 時間目で、最初に教頭先生が放送で近隣にも「不審者対応訓練」をおこなう旨を伝えてから始まりました。子どもたちには教室で担任の先生から、今回の「不審者対応訓練」についての実際の対応についての説明をしていました。

そのあと、放送が入り『不審者』が東門で警備員さんと揉みあいになり振り切って児童玄関から校内に侵入しました。制止を振り切られた警備員さんがすぐさまインターホンで職員室に「不審者侵入」を連絡すると、職員室にいた何人かの先生が児童玄関に駆けつけ、『不審者』を刺激しないように声をかけながら、この侵入者を教室に近づけないように誘導します。しかし、この侵入者もそう簡単には引き下がりません。「〇〇先生は、まだこの学校にいるんか？会いたいんやけど！」などと言いながら、教室の方へ移動していきます。廊下を大きな声をだしながら、時には教室のドアを強く揺らしたりして中を覗いたりしています。校内には侵入者の異様な声とそれに対応している先生たちの声が響いています。教室では担任の先生の指示で子どもたちは一斉に教室の隅に集まり身を小さくして一言も喋らずじっとかたまっています。さらに窓はカーテンなどで遮蔽されて、ドアは内側からしまっています。外からのぞき込んでも中に人がいる気配は感じられません。



この間、侵入者に対応している先生の後から別の先生が不審者が校内のどこに移動していつているのかを職員室へ携帯をつかって連絡を入れ続けています。その情報は逐一職員室からの放送で、教頭先生が校内に流しています。これで、校内のすべての先生や児童は侵入者が「今どこに」いるのかを知ることができます。また、この間に、防御するための「さすまた」をもった先生が「不審者」に対応している先生のもとへ駆けつけてきます。

『不審者』を南館 3 階の図書館前に誘導して、そこへ警察がきて「確保」となる打合せでしたが、『不審者』の予想外の動きで、結局、1 階中庭の給食室の裏側で「確保」となりました。

この「確保」までの時間は 110 番通報してから、実際にパトカーが現場にやってくるまでの時間を想定しています。このあと、「確保」の連絡を受けて校内放送の指示で全校児童は担任と一緒に体育館に集合しました。これまでおこなってきた「避難訓練」のとき以上に皆、真剣そのものでだれも一言も喋らず、短時間で集合でき、人員点呼をおこなうことができました。そのあと、今回の訓練に協力していただいた豊中南警察署の方から、訓練の様子や子どもたちの対応についてお話をいただきました。その中で『不審者』を演じてくださった刑事さん (前田さんといいます) から、「どの教室からもまったく物音や声が聞こえてこなかったのが中に入っているとは思えなかった」「これは素晴らしい」「もし、少しでも音がすればその場で、その部屋に扉を壊してでも入っていったかもしれない」とも言われました。

実際にこんなことが起こってはいけないのですが、「万一」に備えて訓練を重ねることで、先生たちと子どもたちが心をひとつにして「危機」を乗り越えることができるようになれば幸いです。

今回、はじめて「子どもたちが参加」する形で訓練をおこないましたが、これまでの先生たちの経験が生かされ、また子どもたちも実に真剣に取り組んでくれたお陰で成功したといえるでしょう。